

マテリアリティ

各マテリアリティについては、中長期的に取り組んでいく具体的な取り組み及び指標・目標を設定しており、グループ全体で目標達成に向けて取り組んでいます。

指標・目標の進捗状況についてはサステナビリティ委員会に報告され、達成に向けた施策を検討しています。

提供価値	マテリアリティ	関連する機会とリスク	具体的な取り組み	指標	目標年	目標	実績(2024年)
おいしさの喜びと 感動をアップデート	生活者のくらしを向上	機会 短・中期 外部連携による価値共創 中・長期 技術革新によるスペシャリティの創出 短・中期 変化の先読みによる競争優位の確立 中・長期 デジタル、ディスラプションによる事業基盤改革の推進	●MILABを活用した 産官学連携による 共創の推進	●MILAB利用者数 (ショールーム F's DESIGN COURT含む)	2025年	●7,000人/年 ^{※1}	●4,326人/年
		リスク 短・中期 投資を怠ることによる機会損失や競争力の低下 短・中期 強固な参入障壁を構築できないことによる 多数の競合企業の出現	●食のスタートアップ企業 育成	●スタートアップ支援数	2030年	●累計30社、 2社上場	●13社
食のライフラインを支え ゆたかな暮らしへ	フードロスの低減	機会 中・長期 食品ロス関連の法規制、ルール強化 短・中期 冷凍・解凍技術の発展 短・中期 途上国のコールドチェーン構築のニーズ増	●フードロス低減に貢献する 技術開発 ●フードロス低減に貢献する 製品、システム、サービスの 提供 ●アジアのコールドチェーンの 発展に貢献	●製品、サービスを通じた フードロス低減貢献量	2030年	●150,000t/年	●70,042t/年
		リスク 中・長期 食品ロス規制等への対応遅延による事業機会損失					
持続可能なサプライチェーンの実現		機会 短・中期 資源循環や環境に配慮した 製品開発による事業機会の創出 中・中期 お客様の満足度向上による ブランドへの信頼獲得 短・中期 サプライチェーンの最適化等による 新しい価値の創造	●サステナブル調達 ガイドライン浸透 ●サステナブル調達の推進	●サステナブル 調達ガイドラインに沿った 調達(アンケート回収率)	2025年 2030年	●90% ^{※1} ●100%	●89.3%
		リスク 短・中期 サプライチェーン上の品質問題発生による 部品調達不全、製品回収 短・中期 サプライチェーンにおける社会・環境問題への 対応遅れによる部品調達不全、企業価値毀損 短・中期 自然災害やパンデミック、 特定地域の輸出規制への対応の遅れによる サプライチェーンの断絶	●サプライチェーン 最適化の推進 ●Zero Call Companyの 推進	●内製化、強靭化、 デジタル化の推進 ●スマート診断による プレメンテナンス実施件数	2025年 2030年	●定性評価 ●3,000件/年	●板金／銅管加工の内製化 ●主要部品の複数購買／ 適正在庫整備 ●配送センターDX化 ●452件/年
地球上すべてのいのちを いきいきと健康的に	健康的な生活への支援	機会 短・中期 再生医療技術の発展 中・長期 健康課題の深刻化、多様化による食生活習慣の見直し 短・中期 完全調理済冷凍食品の伸長 短・中期 途上国の医療・介護分野の コールドチェーン構築のニーズ増	●再生医療、 ヘルスケア領域への 多様なアプローチ	●再生医療、ヘルスケア等の 新規領域の製品開発	2025年	●定性評価	●メディカルフリーザーノンフロン化 ●血液用保冷庫ノンフロン化 ●細胞凍結用プログラムフリーザー開発 ●ノンフロン解凍庫開発
		リスク 中・長期 メディカル、ヘルスケア分野における競争激化	●メディカル、 ヘルスケアへの貢献	●メディカル、ヘルスケアに 貢献する製品、システム、 サービス提供件数	2030年	●20,000件/年	●8,649件/年
脱炭素社会の実現		機会 短・中期 環境・脱炭素関連の法規制・ルール強化 短・中期 環境性能の高い製品へのニーズ増 中・長期 ネットゼロに向けた取り組みの推進、お客様との協業 短・中期 ブランド信頼獲得	●グリーン冷媒への転換 ●冷媒ガス漏えい防止 ●環境性能の高い製品を 開発・提供	●加重平均GWP ●冷媒漏えい量 ●LCA評価による 環境負荷の少ない 製品への移行	2025年 2029年 2035年 2030年	●500(内蔵型) ●1,450(別置型) ^{※1} ●150(内蔵型) ●750(別置型) ●0t-CO ₂ /年 ●定性評価	●640(内蔵型) ●1,487(別置型) ●39,983t-CO ₂ /年 ●LCA評価機種拡大 ●海外向け業務用冷蔵庫 ノンフロン化 ●2030年比▲50% ●2050年比▲100%
		リスク 短・中期 気候変動への対応遅れによる企業価値毀損 短・中期 温室効果ガス規制等の対応遅延による事業機会喪失	●CO ₂ 排出量削減	●ガリレイグループ CO ₂ 排出量削減率 ●バリューチェーン全体の CO ₂ 排出量削減への 取り組み	2030年	●定性評価	●34.9%(9,120t-CO ₂) ^{※2} ●エアテック31店舗、 エネマネ504店舗 (12.0%省エネ貢献)導入
世界中の一人ひとりの しあわせに貢献	地域社会との共生	機会 短・中期 社員のモチベーション向上や人材育成につながる 中・長期 若年層に広まるESG志向との方向性の一一致、人材獲得の機会拡大 中・長期 食べる喜びやスポーツの楽しさの提供による 企業レビューの向上 中・長期 外部連携による事業機会の創出	●ガリレイ1%クラブを通じた 社会貢献活動の推進	●ガリレイ1%クラブ活動実施件数 ●ボランティア参加延べ人数	2030年	●200件/年 ●1,000人/年	●177件/年 ●828人/年
	人材の育成	機会 短・中期 定着率向上、技術の確実な継承により 確固たる技術力を維持できる 短・中期 コールドチェーンを支える人材の輩出による企業レビューの向上	●人材の育成、 教育制度の継続的強化 ●ガリレイアカデミー 推進・拡大	●一人当たり研修時間 ●技術者養成学校運営による 冷熱技術者の育成	2030年 2025年	●20時間/人 ^{※3} ●定性評価	●13.8時間/人 ^{※3} ●ガリレイアカデミー 卒業者61名/年
	多様な人材の活躍	機会 短・中期 働きがいの向上による会社の成長 中・長期 イノベーションが起きやすい環境づくり 短・中期 様々なバックグラウンドを持つ人材の獲得、 登用ルートの増加 短・中期 社員が心身ともに健康な状態になることで、 仕事へのモチベーションが向上し、生産性が向上する	●従業員エンゲージメントの向上 ●人材基盤の多様性確保 (女性活躍推進、中途採用拡充、 若年層の離職低減、 シニア人材活用、外国人登用拡充)	●エンゲージメントスコア全社平均 ●女性役員比率 ●女性管理職比率 ●海外グループ会社の 現地社員の管理職比率	2030年 2030年 2025年	●65 ^{※3} ●30% ●10% ^{※3} ●55% ●15時間 ^{※3} ●70% ^{※3}	●54.7 ^{※3} ●9.1% ●3.3% ^{※3} ●27.3% ●19.2時間 ^{※3} ●63.4% ^{※3}
	リスク 短・中期 人材獲得競争の激化によるコスト上昇や多様な人材の 獲得が進まない場合の企業レビューの低下	●働きやすい職場環境と 多様な働き方の整備	●時間外労働平均時間 ●有給休暇取得率		2025年		

※1 今年度、目標を見直しています ※2 第三者機関による検証を受けています ※3 フクシマガリレイ単体